

研究の概要

研究種目： 基盤研究(B)研究期間： 2007～2009 課題番号： 19330077

研究課題名 石見銀山領における人口増加開始期における人口再生産機構に関する研究

The study of the mechanism of population reproduction at the period of the onset of population growth in the Shogunate territory of Iwami silver mine.

研究代表者： 廣嶋 清志(Hirosima Kiyosi) 島根大学・法文学部・教授 研究者番号 20284010

研究成果の概要： 石見銀山領の村々（1863-4年、69村ほか）の宗門改帳などを用いて人口・経済・文化の変化を明らかにする研究を行い、その結果、銀山およびたたら鉄山を中心にして萌芽的な都市社会が生み出されていたこと、住民の過半を占める土地を持たない下層農民は、雇用形態が奉公から日雇いなどに変化することによって家族を離れないで生活できるようになり、このため出生率上昇がもたらされたことが推定され、このことが幕末から明治以後の人口増加をもたらす有力な要因であるものと推測された。

We conducted a study of the changes in the population, economy and culture at the last stage of Shogunate territory of Iwami using Shumon Aratame Cho and other material, and we discovered that the rudimental urban society appeared centering around the silver mine and the iron refinery areas, and that the lowest class peasants, accounting for more than half of the inhabitants of the villages, underwent the change of employment status from servants to day laborers and that they could stay longer than before in their own family presumably resulting a higher fertility, which we infer one of the most important factors of the onset of the population growth of the territory.

研究補助金交付額

2007年度	直接経費 190万円	間接経費 57万円
2008年度	直接経費 150万円	間接経費 45万円
2009年度	直接経費 130万円	間接経費 39万円
総計	直接経費 470万円	間接経費 141万円

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：経済学・経済史

キーワード：経済史,人口史,宗門改帳,銀山領,出生率,たたら製鉄

1. 研究開始当初の背景

(1)人口は社会の基本構造をなすものであり、その動態の転換は社会の基本的な変化を意味する。従来、日本の近代的人口転換（出生率・死亡率の低下の開始）は1920年ごろとされてきたが、より以前に起源を求める研究も現れている。すでに江戸時代末期の人口は多くの地域で停滞から増加へと転換し始めたが、それを引き起こしたメカニズムは未解明であり、現段階では、その解明には各地域のミクロな観察を重ねることが必要である。

(2)石見銀山遺跡の世界遺産登録にむけた準備に関わって、銀山周辺地域に関する調査研究が進展していた。

(3)島根大学附属図書館蔵の熊谷家文書中の宗門改帳のデータベース化が進展し、研究に利用できる段階に入りつつあった。

2. 研究の目的

本研究では、石見銀山領の各村の人口増加率の差は、主として出生率、死亡率、移動率のどれによるものか、またその差を生み出す結婚、家族構造およびその背後にある経済・社会の差異とどのように関わっていたかを、銀山および鑛製鉄という特徴ある産業を中心に、商業・漁業など多くの異なる産業を持った100余りの村、人口20-30万の地域の範囲で総合的に明らかにする。

これによって近代人口転換がどのような経済・社会変化と関わって開始されたかを明らかにする1つの事例とすることができる。

3. 研究の方法

(1) 中心的な資料となる宗門改帳について、その作成過程、用字、記載形式、家の構成原理、寺檀関係、銀山・たたら・商店・漁師経営における労務管理などについて各専門分野の知識を持ち寄って研究した。

(2) 宗門改帳およびその他の資料を利用して銀山およびたたら鉄山を中心とした地域社会および地域人口の変化の実態と変化の要因を研究した。

4. 研究成果

(1) 島根県内の宗門改帳を中心とした資料の目録作成、翻刻を進め、島根大学所蔵の石見銀山領の熊谷家文書内の宗門改帳を画像・文字データとして電子ファイル化した。

(2) 浄土真宗門徒は予想に反して他宗門徒に比べ有配偶出生率はやや低く、結婚率が高い事実を確認し、出稼ぎなど経済活動の盛んな真宗門徒を中心にして有配偶出生率の統制を導いた可能性が考えられる。

(3) 幕末に各村に設けられた別株の制度によって家の機能を強化する政策が行われたことは独立性を喪失した家の再興にわずかながら成果を挙げたことが示唆されることを明らかにした。

(4) 持高階層とその家構成員の再生産率が比例すること、その階層差は下層ほど奉公などによる転出率の高いことが重要な要因となっていることを明らかにし、奉公の減少など雇用形態の変化を通じて下層の家族生活がより実質化し出生率が高まり人口増加がもたらされたことが示唆されることを明らかにした。

(5) この地域に盛んなたたら製鉄と石見銀山との関係は、従来ほとんど明らかにされてこなかったが、たたら製鉄に対して貸し付けを行った金融業者は銀山を支配する大森代官所からの拝借銀を利用しており、石見銀山とたたら経営とは金融を通じてつながりを持っていることを明らかにした。

(6) たたら製鉄操業が18世紀初頭に大量生産体制が成立したことを田部家ほかいくつかの鉄師について通年操業の確立期などによって資料的に裏付けた。また、鉄の出荷が18世紀半ばには大坂以外に北陸から越後、会津にまで廻船によって流通市場を拡大したことを明らかにした。

(7) 従来ほとんど明らかにされてこなかった銀山領における買請米制度(年貢米の払い下げ制度)が、銀山経営・銀山領支配において重要な役割を果たしていたことを明らかにした。

(8) 近世後期の石見銀山領のたたら製鉄は、松江藩におけるたたら製鉄の生産量と量的にほぼ同規模であり、熊谷家文書に含まれる宗門人別帳に記載された山内規則からも山内の労働者が不足していたことが読み取れ、また、年齢の書かれていない家族も含まれ、これらは通いの労働者であると推察され、鉄山に通いの労働者を雇っていたものと推定できる。

(9) たたらの山内(従業員)は、他藩の鉄山と交流するとともに、従来の説のように孤立したものではなく周辺農村と労働・婚姻などを通じて交流をもっていたことを資料によって裏付け、少なからぬ経済社会的影響を与えていたことを推察した。

(10) たたら製鉄の従業者の規模はまだ全面的には明らかになっていないが、近世末から近代初期にかけてのいくつかのたたら鉄山の経営資料の研究から、石見地域の人口増加にとって相当の影響を有する可能性が推察された。

(11) 明治初年の漁業の技術の発展段階を示す資料の発掘・解読により、動力導入以前の前近代的漁業技術の到達点と村落間の利害調整方法を分析し、初期的養殖技術の発生などを確認した。

(12) 宗門改帳に記載された名前の構造を分析し、名前解読の技術的基礎を提示するとともに、加齢につれて増加・減少する名辞と変化しない名辞が存在することを明らかにし、改名の存在と同時に名前の時代的变化を解明する手がかりを得た。

(13) 小社・森神の明治初年における石見地域の分布状況の資料により、銀山中心地域での貨幣経済との結びつきの強い稲荷社の隆盛と村落生活的な森神が皆無であることを確認した。

(14) 宗門改における半檀家をめぐる争論が、寺院を通じた宗教的住民把握が家族の持つ宗教機能に依存するが故の矛盾であることを具体的に解明し、宗教に依存しない近代的住民把握が要請される基盤を明らかにした。

5. 主な発表論文等 (研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 13 件)

① 廣嶋清志 2009 「家の再生産と結婚率・出生率—幕末石見銀山領の宗門改帳から見る」『統計』60(7):9-26. 査読なし

<http://www.eco.shimane-u.ac.jp/~hirosima/kojin/ronbun/20090629.pdf>

② 相良英輔 2010 「近世後期たたら設備の貸借と契約 —「懸り受け議定」の分析—」広島経済大学『経済研究論集』32(4):10-18. 査読なし

③ 山崎 亮 2010 「石見地方の「森神」をめぐって—明治初年「神社書上帳」を手がかりに」『山陰民俗研究』15:39-59, 山陰民俗学会. 査読なし

④ 山崎 亮 2009 「翻刻 藤井宗雄著『石見国神社記』巻一安濃郡」『山陰研究』2:55-70 島根大学法文学部山陰研究センター. 査読有

⑤ 小林准士 2009 「石見国迹摩郡今浦文書目録」『山陰研究』2:55-70 島根大学法文学部山陰研究センター. 査読有

⑥ 小林准士 石見銀山附幕領大森町における町役人の職務と文書管理 島根史学会会報 第 46 号 2008 年 1-18 査読無

⑦ 小林准士 石見国幕領大森代官所牢屋関係史料の紹介 山陰研究 第 1 号, 島根大学法文学部山陰研究センター 2008 年 53-71 査読無

http://albatross.soc.shimane-u.ac.jp/src/database/kiyo/tate4_kobayasi.pdf

⑧ 小林准士 石見銀山附幕領における買請米制度に関する基礎的考察 社会文化論集第 5 号 島根大学法文学部紀要社会文化学科編 2009 年 27-43 査読無

<http://ap09.lib.shimane-u.ac.jp/article.php?flag=j&output=table&arid=6867>

⑨ 廣嶋清志, 「熊谷家文書」の石見銀山領宗門改帳と人口研究, 淞雲, 第 9 号, 8-9, 2008, 査読無

⑩ 廣嶋清志, 幕末石見銀山領の同居別株からみた家制度, 経済科学論集, 第 35 号, 1-22, 2009, 査読無

<http://sir.lib.shimane-u.ac.jp/metadb/up/bull.pl?id=7031>

⑪ 島谷智文, 櫻井家所蔵史料「往古ヨリ鉄方御用留拔書」, 島根史学会会報, 第 46 号, 19-42, 2008, 査読無

⑫ 山崎 亮 宗教民俗とコミュニケーション——講演「日本の神々：出雲地方の神話と祭礼」をめぐって—— 島根大学教育学部紀要 無し 第 42 巻別冊 2009 55, 70

⑬ 島谷智文 周吉郡矢尾村の人口構成について 隠岐の文化財 25 号 2008 年 1-7, 無し

〔学会発表〕(計 20 件)

① 相良英輔 「松江藩鉄師頭取田部家文書の概要」鉄の歴史村フォーラム 2009, 雲南市吉田, 2009 年 11 月 5 日

② 伊藤康宏 「明治の博覧会と出雲石見魚漁図解について」第 12 回山陰宗門改帳研究会, 2009 年 7 月 25 日

③ 田籠 博 「宗門帳」所載人名の分析—男女差の観点から— 第 13 回山陰宗門改帳研究会, 2010 年 2 月 5 日

④ 山崎 亮 「浜田の国学者藤井宗雄の著作について—藤園著書目録ほか, 小社と森神の地域分布」第 13 回山陰宗門改帳研究会, 2010 年 2 月 5 日

⑤ 山崎 亮 「石見地方の森神信仰」山陰民俗学会平成 21 年度大会, 松江テルサ. 2009 年 8 月 2 日

⑥ 廣嶋清志, 石見銀山領の宗門別出生率：浄土真宗は高いか？, 日本人口学会第 60 回大会, 2008

年 6 月 8 日, 日本女子大。

- ⑦鳥谷智文 明治初年における秦家のたたら経営 日本技術史教育学会 2008 年度全国大会
2008 年 11 月 15 日 松江工業高等専門学校
- ⑧伊藤康宏: 明治前期における島根県「魚漁図解」 第 9 回山陰宗門改帳研究会 2008 年 6 月
28 日 島根大学
- ⑨山崎亮: 「神社書上帳」にみる石見地方の森神信仰 第 9 回山陰宗門改帳研究会 2008 年 6 月
28 日 島根大学
- ⑩小林准士: 銀山料の一家一寺制に関する天明三年の触書とその広瀬藩への波及 第 9 回山陰宗
門改帳研究会 2008 年 6 月 28 日 島根大学
- ⑪廣嶋清志: 石見銀山領宗門改帳の別株記載例(資料紹介) 第 9 回山陰宗門改帳研究会 2008
年 6 月 28 日 島根大学
- ⑫鳥谷智文 明治初年における秦家の鉄山経営 第 10 回山陰宗門改帳研究会 2008 年 9 月
19 日 島根大学
- ⑬廣嶋清志: 石見銀山領宗門改帳の別株記載の分析 第 10 回山陰宗門改帳研究会 2008 年 9
月 19 日 島根大学
- ⑭仲野義文: 明治 4 年「銀山宗門人別改下帳」について 第 10 回山陰宗門改帳研究会 2008
年 9 月 19 日 島根大学
- ⑮伊藤康宏「明治前期の「水産図解」」第 11 回山陰宗門改帳研究会 2009 年 3 月 26 日 島根
大学
- ⑯廣嶋清志「幕末石見銀山領の同居別株からみた家制度」第 11 回山陰宗門改帳研究会 2009
年 3 月 26 日 島根大学
- ⑰Yamazaki Makoto, Les divinites du Japon : les mythes et les ceremonies de la region
d'Izumo Conference organise par Le Centre Europeen d'Etudes Japonaises d'Alsace
2007. 5. 24 Colmar.
- ⑱鳥谷智文 八重瀧鑪山内の特徴 山陰宗門改帳研究会 2007 年 8 月 31 日 島根大学
- ⑲廣嶋清志 戦前市町村別出生率の低下: 島根県の場合 日本人口学会第 59 回大会 2007 年 6
月 10 日 島根大学
- ⑳山崎 亮 宗教民俗をめぐる異文化間コミュニケーションと世代間コミュニケーション 島
根大学教育学部長裁量経費プロジェクト「世代間コミュニケーションと教育」第 4 回研究会
2008. 3. 13 島根大学

〔図書〕(計 30 件)

- ①伊藤康宏, 松江市『松江市史』序章(村是を確定することなくして可ならんや) 2010 年. 97-101
頁.
- ②相良英輔, 郷土出版社『戦国日本』「全国一の製鉄県・島根と鉄師頭取田部家」2009 年. 313 頁
- ③相良英輔, 郷土出版社『決定版 石見ふるさと大百科』「江の川沿いの石見たたら」2009 年
136-139 頁
- ④廣嶋清志, 古今書院『地域人口からみた日本の人口転換』「日本の出生力転換の始まりー戦前期
島根県における検討」2010 年, 99-136 頁.
- ⑤廣嶋清志, 山陰宗門改帳研究会『宗門改帳からみる山陰の近世社会 その 3 石見銀山領にお
ける人口増加開始期における人口再生産機構に関する研究』家の再生産と結婚率・出生率ー幕末
石見銀山領の宗門改帳から見る, 2010 年, 3-25 頁
http://albatross.soc.shimane-u.ac.jp/src/project_j/jrp_0713.html
- ⑥廣嶋清志, 山陰宗門改帳研究会『宗門改帳からみる山陰の近世社会 その 3 石見銀山領にお
ける人口増加開始期における人口再生産機構に関する研究』幕末石見銀山領における移動と就業
ー熊谷家宗門改帳から見る. 2010 年, 26-46 頁
- ⑦仲野義文, 山陰宗門改帳研究会『宗門改帳からみる山陰の近世社会 その 3 石見銀山領にお
ける人口増加開始期における人口再生産機構に関する研究』「宗門人別改帳」に見る明治初期の
銀山町の様相 2010 年. 47-56 頁
- ⑧相良英輔, 山陰宗門改帳研究会『宗門改帳からみる山陰の近世社会 その 3 石見銀山領にお
ける人口増加開始期における人口再生産機構に関する研究』近世後期たたら設備の貸借と契約
ー「懸り受け議定」の分析ー. 2010 年 57-61 頁
- ⑨相良英輔, 山陰宗門改帳研究会『宗門改帳からみる山陰の近世社会 その 3 石見銀山領にお
ける人口増加開始期における人口再生産機構に関する研究』松江藩鉄師頭取田部家文書の概要ー

田部家古文書調査から知りえたこと～. 2010 年, 62-71 頁

⑩田籠 博, 山陰宗門改帳研究会『宗門改帳からみる山陰の近世社会 その 3 石見銀山領における人口増加開始期における人口再生産機構に関する研究』『宗門帳』所載人名の分析. 2010 年, 72-81 頁

⑪山崎 亮, 山陰宗門改帳研究会『宗門改帳からみる山陰の近世社会 その 3 石見銀山領における人口増加開始期における人口再生産機構に関する研究』石見地方の「森神」をめぐって—明治初年「神社書上帳」を手がかりに—. 2010 年, 82-107 頁

⑫小林准士, 山陰宗門改帳研究会『宗門改帳からみる山陰の近世社会 その 3 石見銀山領における人口増加開始期における人口再生産機構に関する研究』一家一寺制に関する触書と関連史料の紹介. 2010 年, 126-145 頁.

⑬鳥谷智文, 山陰宗門改帳研究会『宗門改帳からみる山陰の近世社会 その 3 石見銀山領における人口増加開始期における人口再生産機構に関する研究』山内の様相と人の動き—八重滝鉦を中心として—. 2010 年, 117-125 頁.

⑭伊藤康宏, 山陰宗門改帳研究会『宗門改帳からみる山陰の近世社会 その 3 石見銀山領における人口増加開始期における人口再生産機構に関する研究』博覧会時代の「漁業図解」—出雲石見と因幡伯耆の「魚漁図解」. 2010 年, 108-116 頁.

⑮仲野義文, 清文堂出版, 『銀山社会の解明—近世石見銀山の経営と社会』 2009、総 214 頁

⑯相良英輔, 島根大学, 『松江藩鉄師頭取 田部家の研究』田部家の由来とたたら製鉄業の展開, 2009, 1-34 頁

⑰小林准士 (澤博勝・高埜利彦編) 『近世の宗教と社会 3 民衆の〈知〉と宗教』神祇不拝の論理と行動 吉川弘文館 2008 年 64-96 頁

⑱伊藤康宏 (藤岡大拙監修) 『松江・安来 ふるさと大百科』近世中海・宍道湖の漁業、郷土出版社、2008 135-135 頁

⑲伊藤康宏, 『山口県史 史料編 近代 5』第二章 農林畜産業解説 第 1 節 農業 3、4、第三章 水産業 第二節 水産諸団体 (pp. 124-127, pp. 246-250)、山口県、2008

⑳鳥谷智文, 島根大学, 『松江藩鉄師頭取 田部家の研究』「文化拾貳年 舊記」の検討, 2009, 35-64 頁

21 鳥谷智文, 島根大学, 『銀の流通と石見銀山周辺地域に関する歴史学的研究』近世後期における石見国安濃郡志学村富屋・富久屋の金融業について, 2009, 116-133 頁

22 相良英輔, 島根大学, 『銀の流通と石見銀山周辺地域に関する歴史学的研究』江の川沿いの石見たたら, 2009, 56-58 頁

23 相良英輔, 島根大学, 『銀の流通と石見銀山周辺地域に関する歴史学的研究』田儀桜井家史料についての紹介と若干の分析, 2009, 59-62 頁

24 田籠 博 ワン・ライン 『出雲国産物帳』2008 年 総 202 頁

25 相良英輔 清文堂『たたら製鉄・石見銀山と地域社会 近世近代の中国地方』近世後期松江藩におけるたたら生産と流通 2008 3-28 頁

26 鳥谷智文 清文堂『たたら製鉄・石見銀山と地域社会 近世近代の中国地方』明治初期における鉄山経営の推移—一家鳴家・絲原家を中心に— 2008 99-129 頁

27 廣嶋清志 清文堂『たたら製鉄・石見銀山と地域社会 近世近代の中国地方』石見銀山領の社会階層別の出生率と結婚率—真宗の出生率は高いか? 2008 221-250 頁

28 山崎 亮 清文堂『たたら製鉄・石見銀山と地域社会 近世近代の中国地方』明治初期旧石見銀山領における森神信仰—数量的把握の試み— 2008 251-271 頁

29 伊藤康宏 清文堂『たたら製鉄・石見銀山と地域社会 近世近代の中国地方』近代日本における地域漁業問題と漁村経営—島根県簸川郡旧北浜村を事例に— 2008 319-338 頁

30 小林准士 清文堂『たたら製鉄・石見銀山と地域社会 近世近代の中国地方』松江藩の国益政策と旅人 2008 403-430 頁

〔その他〕

ホームページ等

http://albatross.soc.shimane-u.ac.jp/src/project_j/jrp_0713.html

<http://agecon.shimane-u.ac.jp/~itoyasu/itoyasu.htm>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

廣嶋 清志 (Hirosima Kiyosi)

島根大学・法文学部・教授

研究者番号：20284010

(2)研究分担者

田籠 博 (Tagomori Hiroshi)

島根大学・法文学部・教授

研究者番号：30032642

小林 准士 (Kobayashi Junji)

島根大学・法文学部・准教授

研究者番号：80294354

相良 英輔 (Sagara Eisuke)

広島経済大学大学院・経済学研究科・教授

研究者番号：70124071

山崎 亮 (Yamazaki Makoto)

島根大学・法文学部・教授

研究者番号：40191275

伊藤 康宏 (Ito Yasuhiro)

島根大学・生物資源科学部・教授

研究者番号：40201933

鳥谷 智文 (Toya Tomofumi)

松江工業高等専門学校・人文科学科・准教授

研究者番号：10280439

(3)研究協力者

仲野博文 (Nakano Hirofumi)

石見銀山資料館・館長